

ようこそ畠へ

2010年9月7日(火)・9月9日(木)

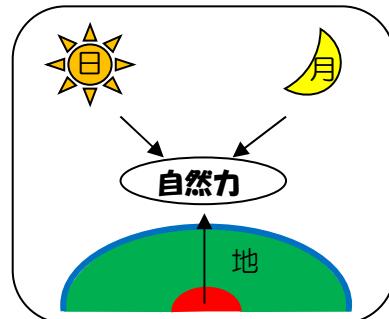
「自然栽培」「自然農法」「自然農」など「自然〇〇」という農業の在り方が注目を集めています。農家が百軒あれば百通りのやり方があるわけで、「〇〇農法」はこうあらねばならない、と決めてしまうこと自体が少し無理があります。それを踏まえた上で、伊達家が取り組む自然栽培について、改めて書いてみたいと思います。

伊達家が取り組む自然栽培は、人間が化学肥料や有機肥料などによって作物に肥料を与えることはしません。もちろん化学合成農薬も自然由来の農薬的な資材も一切使用しません。

これは、作物は何の力で育つのか、という捉え方が慣行農法や有機農法と違う事に由来します。一般的に、作物が育つためには、肥料が欠かせないと考えられていますが、自然栽培では、日・水・土の力で作物が育つと考えます。

「日」は太陽のエネルギー、「水」は月のエネルギー、「土」は地球のエネルギーで、この三つのエネルギーが一体となった力を「自然力」と呼び、この自然力が十分に発揮されれば、作物はエネルギーあふれる健康体で育ち、虫や病気にからず、結果として農薬を必要としない、というのが自然栽培の基本的な考え方です。

太陽・月・地球のエネルギーのうち、太陽(日)、月(水)のエネルギーは不斷に降り注いでいますが、人間が与える肥料や農薬が土に蓄積することにより、地球(土)のエネル

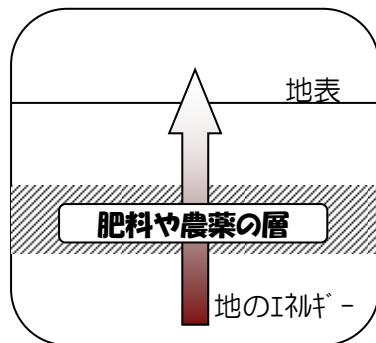


ギーが十分に発揮されずその結果、作物に成長に必要なエネルギーが働くなくなると、自然栽培では考えます。

そこで、自然栽培を成功させるためには、土の中に蓄積している過去に投入された肥料・農薬を抜いていく必要があります。実際、畑の土を掘ってみると、畑の条件によって違いますが、20~30 センチ程度の深さに過去に投入された肥料や農薬が蓄積している層がみられる場合があります。この蓄積した肥料や農薬を根が土深く張る植物の力などを活用して吸い出し、地球の本来のエネルギーが発揮されるように取り組んでいくことが必要とされています。

そして、土が清浄化して自然力が十分に発揮されれば、虫や病気、草など作物の成長を阻害するものの発生は格段に少なくなっています。

伊達家の畑では、現状では、虫も草も病気も発生します。畑を掘り返してみると、今年の雨の多さの影響もあって、色が変わって、臭いがする層が確かにあります。しかし、伊達家の畑の、おそらく 60 年ほどの歴史の中で、必要があって肥料や農薬が使用されてきたことを否定的に捉える考えは僕にはありません。熊がいるような森林原野を切り拓き農地として整備し、耕し続けてきた先達の人々の存在があってこそ、僕達はこの地で野菜をつくることができます。そのことに感謝を捧げつつ、この地で自然栽培が成功するよう、日々、地道に土と作物に向き合っていきたいと考えています。



伊達家の食卓

【枝豆（青大豆）】（自家採種）

今週は青大豆の枝豆をお届けします。焼いたシャケをほぐして、枝豆と一緒にご飯にまぜて食べるとおいしいです。

【ズッキーニ】（自家採種）

生のままみじん切りにしてポテトサラダに入れるとおいしいそうです。僕は、最近教えていただいた、ごま油で焼いたズッキーニをからし醤油で食べるのにはまっています。

【カリフラワー】

暑さのせいか、徒長（とちょう・伸びすぎの意味です。）ぎみです。ゆでてマヨネーズが美味しいです。

【大根菜】

秋大根の間引き菜です。ふりかけのレシピを改めて紹介します。

その1 大根菜を1センチぐらいに切り、ごま油でいため、さっと醤油をかけ、カツオ節を混ぜる。

その2 大根菜を1センチぐらいに切り、油でいため、ニンニク（みじん切り）とじゃこを加え、さっと醤油をかける。

その3 大根菜をみじん切りにしてボウルに入れ、塩もみする。やわらかくなったら軽くしぼり、人参みじん切り、カツオ節、じゃこ、ゴマを加える。

ファーム伊達家を長く支えてくれている僕達夫婦の大切な友人の方から伊達家と畑をイメージしたイラストをいただきました。茶の間に飾って励みにしています。



また、他の大切な友人の方からも、絵手紙をいただきました。こちらも茶の間に飾って励みにしています。

